

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
人体の構造と機能Ⅰ	1 セメスター	1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
	相見 良成 (実務経験 有)		時間 ／ 回
事前学習内容			
授業計画に沿って、章ごとにテキストを読み、予習しておく。 模型に触れ、各部の名称や位置関係を理解しておく。			
科目概要・目的			
人々の健康を支える看護職には、人体の正常な構造と機能に関する知識が必要である。そのため、本科目では人体の循環器系・呼吸器系・消化器系に関連する諸器官の構造と機能を学ぶ。			
D P との関連	＊特に関連の深いものを提示する		
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を 実践できる。			
授業計画			
1. 解剖学・生理学イントロダクション 講義 1)個体を構成する様々なレベル 2)生存に必須の機能 3)解剖学の用語			
2. 循環器系 講義 1)心臓の構造と機能 2)血管の構造と機能			
3. 呼吸器系 講義 1)鼻・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺の構造 2)呼吸のしくみ			
4. 消化器系 講義 1)消化管（口腔・食道・胃・小腸・大腸）の構造と機能 2)付属器（歯・消化腺・脾臓・肝臓・胆嚢）の構造と機能 3)消化・吸収・代謝のしくみ			
＊筆記試験（Ⅰ・Ⅱ合わせて2時間:90分）			
評価方法			
筆記試験(100%) 60点以上を合格とする。			
使用テキスト			
「系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学」医学書院			
参考文献			
「人体の構造と機能」 第4版 エイレンNマリーブ著 医学書院			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
人体の構造と機能Ⅱ	1 セメスター	1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
	相見 良成 (実務経験 有)	時間 ／ 回	
事前学習内容			
「人体の構造と機能Ⅰ」の内容を想起する。授業計画に沿って、章ごとにテキストを読み、予習しておく。 模型に触れ、各部の名称や位置関係を理解しておく。			
科目概要・目的			
人々の健康を支える看護職には、人体の正常な構造と機能に関する知識が必要である。そのため、本科目では人体の筋・骨格系、泌尿器系、生殖器系に関連する諸器官の構造と機能、および細胞と組織について学ぶ。			
D P と の 関 連	＊特に関連の深いものを提示する		
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を 実践できる。			
授業計画			
<div>1. 筋・骨格系</div> <div>1)軸骨格（頭蓋・脊柱・胸部）と付属肢骨格（上肢・下肢）</div> <div>2)関節</div> <div>3)骨・関節のはたらき</div> <div>4)筋組織の型</div> <div>5)筋のはたらき</div> <div>6)全身の筋肉</div> <div>2. 細胞と組織</div> <div>1)細胞</div> <div>2)上皮組織・結合組織・筋組織・神経組織</div> <div>3. 泌尿器系</div> <div>1)腎臓の構造と機能</div> <div>2)体液の調節</div> <div>4. 生殖器系</div> <div>1)男性生殖器</div> <div>2)女性生殖器と性周期</div> <div>3)受精・胚の発育</div> <div>＊筆記試験（Ⅰ・Ⅱ合わせて2時間:90分）</div> <div>講義</div> <div>講義</div> <div>講義</div>			
評価方法			
筆記試験(100％) 60点以上を合格とする。			
使用テキスト			
「系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学」医学書院			
参考文献			
「人体の構造と機能」 第4版 エイレンNマリーブ著 医学書院			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
人体の構造と機能Ⅲ	1 セメスター	1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(单元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
	豊田 太 (実務経験 有)	時間 ／ 回	
事前学習内容			
「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」の内容を想起する。授業計画に沿って、章ごとにテキストを読み、予習しておく。模型に触れ、各部の名称や位置関係を理解しておく。			
科目概要・目的			
人々の健康を支える看護職は人体の正常な構造と機能に関する知識が必要である。そのため、本科目では人体の皮膚・神経・感覚器に関連する諸器官の構造と機能を学ぶ。			
D P と の 関 連	＊特に関連の深いものを提示する		
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を 実践できる。			
授業計画			
1. 血液 講義 1)血液の組成と機能 2)赤血球、白血球、血小板 3)血液の凝固と線溶、血液型			
2. 身体機能の防御と適応 講義 1)皮膚の構造と機能 2)生体の防御機構 3)自然免疫と獲得免疫 4)体温の調節			
講義			
＊筆記試験（1時間:45分）			
評価方法			
筆記試験(100％) 60点以上を合格とする。			
使用テキスト			
「系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学」医学書院			
参考文献			
「人体の構造と機能」 第4版 エイレンNマリーブ著 医学書院			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名		開講時期	単位数	科目時間数／授業回数	
人体の構造と機能Ⅳ		1 セメスター	1 単位	30 時間 ／ 15 回	
科目内容の内わけ(单元名)		講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数	
		豊田 太 (実務経験 有)		時間 ／ 回	
事前学習内容					
「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内容を想起する。授業計画に沿って、章ごとにテキストを読み、予習しておく。模型に触れ、各部の名称や位置関係を理解しておく。					
科目概要・目的					
人々の健康を支える看護職は人体の正常な構造と機能に関する知識が必要である。そのため、本科目では人体の内分泌・血液・生体防御に関連する諸器官の構造と機能を学ぶ。					
D P との関連		＊特に関連の深いものを提示する			
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。					
授業計画					
1. 内臓機能の調節		講義			
1)自律神経					
2)内分泌とホルモン					
3)内分泌腺とホルモン分泌の調節					
4)糖代謝、カルシウム代謝、血圧の調節					
2. 情報の受容と処理		講義			
1)神経系の構造と機能					
2)脳神経と脊髄神経					
3)運動と感覚					
4)特殊感覚（視覚、聴覚、味覚、嗅覚）					
		講義			
＊筆記試験（1時間:45分）					
評価方法					
筆記試験(100％)		60点以上を合格とする。			
使用テキスト					
「系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学」		医学書院			
参考文献					
「人体の構造と機能」		第4版 エイレンNマリーブ著 医学書院			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
看護のための生化学	1 セメスター	1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(单元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
	石原 安信 (実務経験 有)	時間 ／ 回	
事前学習内容			
生体を構成する物質について復習しておく。			
科目概要・目的			
人の身体を診る看護職にとって、生体内でのエネルギーの獲得や、恒常性の維持に関する仕組みの理解は重要なことである。生体を構成している物質の性質とその代謝を学び、生体活動における有機的な繋がりを理解する。			
D P との関連	＊特に関連の深いものを提示する		
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。			
授業計画			
1.生体を構成する物質 講義 1) 生化学を学ぶ基礎知識 2) 糖質 3) 脂質 4) たんぱく質 5) 核酸 6) 水と無機質			
2.生体内の物質代謝 講義 1) 代謝概要 2) 酵素 3) ビタミンと補酵素 4) 糖質代謝 5) たんぱく質代謝 6) 核酸代謝 7) 遺伝情報			
3.生化学的側面からみたがんについて 講義 1) がん細胞と正常細胞の違い 2) 遺伝子異常とその診断、治療への適応 3) 緩和ケアについて			
※筆記試験（1時間:45分）			
評価方法			
筆記試験（50％）+小テスト（40％）+受講態度（10％）の総合評価で60点以上を合格とする			
使用テキスト			
「系統看護学講座 人体の構造と機能② 生化学」 医学書院			
参考文献			
授業で紹介する			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
看護のための栄養学	2 セメスター	1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
	松田 昌美 (実務経験 有)	時間 ／ 回	
事前学習内容			
看護のための生化学の既習内容の想起			
科目概要・目的	「食えることは生きること」であり、健康の維持・増進、回復に欠かせないものである。人間の健康と栄養の関連を理解し、健康の維持・増進、回復するために必要な栄養管理と食事療法の基本を学ぶ。		
D P と の 関 連	＊特に関連の深いものを提示する		
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。			
授業計画	1.健康と栄養 1) 食生活・栄養の意義 2.食物と栄養素 1) 食物の種類と栄養素 2) 栄養素の働き（炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミン） 3.食物の摂取と消化・吸収 1) 栄養素の摂取と消化 2) 栄養素の吸収と排泄 4.ライフステージと健康教育 1) ライフサイクルと栄養 （妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、老年期） 5.疾病と栄養 1) 疾患別の食事指導 （1）高血圧、脂質異常症、肥満、痛風 （2）循環器系：動脈硬化、虚血性心疾患、うっ血性心不全、脳卒中 （3）呼吸器系：慢性閉塞性肺疾患 （4）腎臓疾患：慢性腎臓病、腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、人工透析 （5）糖尿病、食品交換 （6）消化器系：肝疾患（肝炎、肝硬変）、膵炎、胆嚢炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、胃切除 2) 摂食・嚥下障害、褥瘡対策 3) 治療食の実際（演習） ※筆記試験（1時間:45分）		
評価方法	筆記試験(100%) 60点以上を合格とする		
使用テキスト	「系統看護学講座 人体の構造と機能③ 栄養学」 医学書院		
参考文献			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期		単位数	科目時間数／授業回数
人体と微生物	1 セメスター		1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)			単元時間数／授業回数
	福堀 順敏 (実務経験 有)			時間 ／ 回
事前学習内容				
身近な感染症にまつわるニュースを読み、自分なりにまとめる。				
科目概要・目的				
人の暮らしは微生物と密接に関係している。微生物は健康と生命に恩恵をもたらすものもあれば、脅威となるものもある。本科目では、感染防止の正しい知識を身につけるために、微生物の特徴と人体に及ぼす影響を学ぶ。				
D P と の 関 連 * 特に関連の深いものを提示する				
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。				
授業計画				
1.微生物学の基礎	1) 微生物とはなにか 2) 微生物の一般性状 3) 微生物の滅菌と消毒 4) 微生物に対する化学療法 5) 微生物の検査方法			講義・演習
2.微生物の感染	1) 微生物のヒトへの感染 2) 日和見感染と院内感染			講義
3.病原微生物各論	1) 病原細菌 2) 病原真菌 3) 病原原虫 4) 病原ウイルス			講義
4.感染予防対策	1) 感染予防・予防接種 2) 感染症の疫学			講義
5.免疫	1) 免疫とはなにか 2) 液性免疫 3) 細胞性免疫 4) アレルギー 5) 免疫不全症と自己免疫病			講義
※筆記試験（1時間:45分）				
評価方法				
筆記試験(100%) 60点以上を合格とする				
使用テキスト				
「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学」 医学書院				
参考文献				

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
病因論	2 セメスター	1 単位	15 時間 ／ 8 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
	杉原 洋行 (実務経験 有)	時間 ／ 回	
事前学習内容			
細胞について、人体の構造と機能Ⅰ・看護のための生化学を復習しておき、授業計画の内容・進度に関して復習しておく。			
科目概要・目的			
病状を捉え最善の看護を実践するため、病気の成り立ちについて本質的に理解しておくことが必要である。そこで本科目では、健康な状態から疾病に至る身体内部の変化について学ぶ。			
D P との関連	＊特に関連の深いものを提示する		
DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。			
授業計画			
<div>1病気になるということ</div> <div>1) 内因と外因</div> <div>2) ホメオスタシスと急性の変化、慢性の変化</div> <div>2.細胞社会の量的変化：細胞交替とその障害</div> <div>1) 細胞の増殖、分化と死</div> <div>2) 細胞集団のサイズの変化：萎縮と生長 (過形成、腫瘍)</div> <div>3.細胞の変化</div> <div>1) 変性と壊死、アポトーシス</div> <div>2) 代謝異常</div> <div>3) 細胞のサイズの変化：萎縮と肥大</div> <div>4) 個体から個体への遺伝</div> <div>4.体細胞から体細胞への遺伝：腫瘍と先天異常</div> <div>1) 優性遺伝子と劣勢遺伝子</div> <div>2) 腫瘍の本態、腫瘍を臨床でどう扱うか</div> <div>3) 先天異常</div> <div>5.循環障害</div> <div>1) うっ血と浮腫</div> <div>2) 止血と出血傾向、血栓と塞栓</div> <div>3) リンパ系と胸水・腹水</div> <div>6.細胞社会の維持：炎症と免疫</div> <div>1) 炎症の急性と慢性</div> <div>2) 細菌の進化と免疫系の進化</div> <div>3) 免疫の2つの顔：排除と寛容</div> <div>7.細胞社会の変質</div> <div>1) 感染防御免疫とアレルギーとの関係</div> <div>2) 老化</div> <div>8.死と病理解剖</div> <div>※筆記試験（1時間:45分）</div>			
評価方法			
筆記試験(100%) 60点以上を合格とする			
使用テキスト			
「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔1〕病理学」医学書院			
参考文献			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名		開講時期	単位数	科目時間数／授業回数	
病気と検査		2 セメスター	1 単位	15 時間 ／ 8 回	
科目内容の内わけ(单元名)		講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数	
		大村 寧 (実務経験 有)		時間 ／ 回	
事前学習内容					
		学習進度に合わせて臓器の働きや疾患との関連を想起し、予習しておく。			
科目概要・目的					
		看護師は臨床検査の意味だけではなく、複数の検査結果から優位なものを選択し、患者の訴えや身体所見を関連付けて病態を把握する力が必要である。そこで本科目では、検査値の臨床病理的な意味と結果の解釈の仕方を学ぶ。			
D P との関連		＊特に関連の深いものを提示する			
		DP(1)人と暮らしを大切に捉え、対象を統合的に理解し、科学的思考に基づいた看護が実践できる。			
授業計画					
		1.臨床検査とその役割			
		2.臨床検査の流れと看護師の役割			
		3.一般検査			
		4.血液検査			
		5.化学検査			
		6.免疫・血清検査			
		7.ホルモン検査			
		※筆記試験（1時間:45分）			
評価方法					
		筆記試験(100%) 60点以上を合格とする			
使用テキスト					
		「系統看護学講座 別巻 臨床検査」医学書院 「臨床検査データブック」医学書院			
参考文献					

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
病態治療論Ⅰ	2 セメスター	1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(单元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
生命維持機能の障害：呼吸	藤田 琢也 (実務経験 有)	14 時間 ／ 7 回	
生命維持機能の障害：循環	山本 孝 (実務経験 有)	16 時間 ／ 8 回	
事前学習内容			
・人体の構造と機能で学習した内容(呼吸器、循環器)			
科目概要・目的			
生命維持において呼吸機能と循環機能は重要である。そこで、本科目では呼吸機能と循環機能の障害によって生じる様々な症状と病態について理解し、健康障害の回復に向けた治療について学ぶ。			
DPとの関連	＊特に関連の深いものを提示する		
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。			
授業計画			
<div>Ⅰ. 生命維持機能の障害：呼吸</div> <div><div><div>1. 呼吸器の形態と機能</div><div>2. 症状と病態生理</div><div>1)喀痰・血痰、咳嗽</div><div>2)胸痛</div><div>3)呼吸困難、ばち指、チアノーゼ</div><div>4)発熱</div><div>3. 診断と検査</div><div>1)胸水</div><div>2)レントゲン、CT、MRI等</div><div>3)気管支鏡検査</div><div>4)呼吸機能検査</div></div><div><div>4. 主な疾患とその診療</div><div>1) 感染症</div><div>・インフルエンザ</div><div>・肺炎</div><div>・結核</div><div>2) 間質性肺疾患</div><div>・塵肺</div><div>3) 気道疾患</div><div>・気管支喘息</div><div>・気管支拡張症</div><div>・慢性閉塞性肺疾患</div><div>4) 肺血栓塞栓症</div><div>5) 呼吸不全</div><div>6) 肺腫瘍</div><div>7) 胸膜・縦隔の疾患</div></div></div>			
<div>Ⅱ. 生命維持機能の障害：循環</div> <div><div><div>1. 心臓・血管系の形態と機能</div><div>2. 症状と病態生理</div><div>1)弁膜症</div><div>2)心膜炎</div><div>3)心筋疾患</div><div>4)大動脈解離</div><div>5)静脈系疾患</div><div>6)不整脈(刺激伝導系)</div><div>3. 診断と検査</div><div>1)標準十二誘導心電図など</div><div>2)心臓カテーテル検査</div><div>4. 主な治療法</div></div><div><div>5. 主な疾患とその診療</div><div>1) 虚血性心疾患</div><div>2) 血圧異常</div><div>3) 不整脈</div><div>4) 弁膜症</div><div>5) 心膜炎</div><div>6) 動脈系疾患</div><div>7) 静脈系疾患</div><div>8) リンパ管炎</div></div><div>＊筆記試験 (1時間：45分)</div></div>			
評価方法			
筆記試験(100%) (呼吸50点+循環50点) 合計で60点以上を合格とする。ただし、各単元0点でないことを条件とする。			
使用テキスト			
「系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器」 医学書院			
参考文献			
「人体の構造と機能」 医学書院			

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
病態治療論Ⅱ	2 セメスター	1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(单元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
消化機能の障害：吸収・代謝	中浦 玄也	(実務経験 有)	12 時間 ／ 6 回
消化機能の障害：通過	太田 裕之	(実務経験 有)	12 時間 ／ 6 回
消化機能の障害：咀嚼・嚥下	蠅庭 秀也	(実務経験 有)	6 時間 ／ 3 回
事前学習内容	・人体の構造と機能で学習した内容(消化器、歯・口腔)		
科目概要・目的	消化・吸収・代謝は、エネルギーの生成に必要な機能である。消化・吸収・代謝機能が障害されると生命を維持することが困難となる。そこで本科目では、各臓器の病態生理及び疾患、治療法について学ぶ。		
D Pとの関連 *特に関連の深いものを提示する	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。		
授業計画	<div>I. 消化機能の障害：吸収・代謝</div> <div>1. 症状と病態生理</div> <div>2. 診断の基礎と検査</div> <div>3. 主な疾患と内科的治療法</div> <div><食道・胃・腸の疾患></div> <div>1) 食道癌</div> <div>2) 胃食道逆流症</div> <div>3) 胃炎</div> <div>4) 胃十二指腸潰瘍</div> <div>5) 胃癌</div> <div>6) 腸炎 (急性腸炎、感染性腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性大腸炎)</div> <div>7) イレウス</div> <div>8) 大腸癌</div> <div>9) 大腸ポリープ</div> <div><肝臓・胆嚢・膵臓の疾患></div> <div>1) 肝炎(急性肝炎、慢性肝炎、劇症肝炎)</div> <div>2) 肝硬変、肝癌</div> <div>3) 胆嚢炎、胆嚢癌、胆嚢結石</div> <div>4) 膵炎(急性膵炎、慢性膵炎)、膵臓癌</div> <div>4. グループワーク(演習)</div> <div>II. 消化機能の障害：通過</div> <div>1. 消化器系の形態と機能</div> <div>2. 手術に必要な基礎の検査</div> <div>3. 消化管の手術と術前術後管理</div> <div>4. 肝・胆・膵の手術と術前術後管理</div> <div>5. 主な疾患とその診療</div> <div>1) 食道癌</div> <div>2) 胃癌</div> <div>3) 結腸癌</div> <div>4) 直腸癌</div> <div>5) 虫垂炎</div> <div>6) 腸閉塞</div> <div>7) 肝癌</div> <div>8) その他</div> <div>7. グループワーク(演習)</div>		

<p>Ⅲ. 消化機能の障害：咀嚼・嚥下</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯・口腔の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 検査と治療・処置 4. 主な疾患と歯科・口腔外科的治療法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 歯の異常と疾患 2) 歯周組織の疾患 3) 口腔粘膜の疾患 4) 口腔領域ののう胞 5) 口腔領域の腫瘍 6) 口腔領域の悪性腫瘍 7) 顎骨の外傷 8) 先天異常および発育異常 9) 顎関節の疾患 10) 唾液腺の疾患 11) 神経の疾患 5. 嚥下のしくみと機能低下 (2時間：専任教員) <p>* 筆記試験 (1時間：45分)</p>	
評価方法	<p>筆記試験(100%) (吸収・代謝40点+通過60点)</p> <p>合計で60点以上を合格とする。ただし、各単元0点でないことを条件とする。</p> <p>* 咀嚼・嚥下の学習内容は老年看護学で評価する</p>
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔15〕歯・口腔」 医学書院</p>
参考文献	<p>「人体の構造と機能」 医学書院</p>

【専門基礎分野】 必須科目

科目名		開講時期		単位数		科目時間数／授業回数	
病態治療論Ⅲ		3 セメスター		1 単位		30 時間 ／ 15 回	
科目内容の内わけ(単元名)		講義担当者(実務経験の有無)				単元時間数／授業回数	
脳・神経機能の障害		初田 直樹 (実務経験 有)				10 時間 ／ 5 回	
		小河 秀郎 (実務経験 有)				10 時間 ／ 5 回	
放射線療法		邵 啓全 (実務経験 有)				10 時間 ／ 5 回	
事前学習内容							
・人体の構造と機能で学習した内容(脳・神経、細胞、皮膚)							
科目概要・目的							
<p>脳・神経は、人が生活するうえで重要となる身体活動を調整する機能を司る。その機能が障害されると暮らしの維持が困難となる。本科目では脳・神経の障害による症状を捉え、臓器の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。</p> <p>また、現代の医療において放射線は検査や治療に必要不可欠である。そのため、放射線検査や放射線療法に必要な基礎的知識を学ぶ。</p>							
D P との関連		＊特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。							
授業計画							
<p>I. 脳・神経の障害</p> <p>1. 脳・神経系の形態と機能</p> <p>2. 神経症状</p> <p>3. 診断と治療</p> <p>4. 主な疾患とその診療</p> <p>1) 脳卒中</p> <p>2) 筋萎縮性側索硬化症</p> <p>3) 多発性硬化症</p> <p>4) 進行性筋ジストロフィー</p> <p>5) 重症筋無力症</p> <p>6) アルツハイマー病</p> <p>7) パーキンソン病</p> <p>8) 意識障害と頭蓋内圧について</p> <p>9) 脳ヘルニアの病態生理について</p> <p>10) 頭部外傷(慢性硬膜下血腫)</p> <p>7. 手術適応となる主な疾患とその診療</p> <p>8. 脳卒中リハビリテーションについて (2時間 認定看護師)</p>							
<p>II. 放射線療法</p> <p>1. 放射線の原理と基礎知識</p> <p>2. 放射線診断と治療</p> <p>3. 放射線防護</p> <p>4. 放射線検査・治療について</p> <p>5. 放射線看護について (3時間 専任教員)</p> <p>＊筆記試験 (1時間：45分)</p>							
評価方法							
筆記試験(100%) (脳・神経の障害70点+放射線療法30点) 合計で60点以上を合格とする。ただし、各単元0点でないことを条件とする。							
使用テキスト							
「系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院							
参考文献							
「人体の構造と機能」 医学書院							

科目名		開講時期		単位数		科目時間数／授業回数	
病態治療論Ⅳ		3 セメスター		1 単位		30 時間 ／ 15 回	
科目内容の内わけ(単元名)		講義担当者(実務経験の有無)				単元時間数／授業回数	
血液・造血機能の障害		武内 美紀		(実務経験 有)		6 時間 ／ 3 回	
		辻川 知之		(実務経験 有)		4 時間 ／ 2 回	
免疫防御機能の障害：感染・アレルギー		武田 尚子		(実務経験 有)		4 時間 ／ 2 回	
		福永 健太郎		(実務経験 有)		8 時間 ／ 4 回	
免疫防御機能の障害：皮膚		山本 文平		(実務経験 有)		8 時間 ／ 4 回	
事前学習内容		・人体の構造と機能(皮膚・細胞・造血機能・免疫機能)を復習しておく ・人体と微生物を復習しておく					
科目概要・目的		血液・造血機能や免疫防御機能は、外部からの異物の侵入を防ぎ生体内の環境の維持に重要な役割を担っている。しかし、その機能が障害されると身体の各臓器の機能低下を生じる。そのため本科目では、防御機能の障害によって生じる様々な症状と病態について理解し、健康障害の回復に向けた治療について学ぶ。					
D P と の 関 連		＊特に関連の深いものを提示する					
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。							
授業計画		Ⅰ. 血液・造血機能の障害 1. 血液、造血器および免疫機能に関する臓器の形態と機能 2. 症状と病態整理 3. 診断と検査 4. 主な疾患とその診療 1) 貧血 2) 血友病 3) 血小板減少症 4) 白血病 5) 悪性リンパ腫 6) A I D S Ⅱ. 免疫防御機能の障害：感染・アレルギー 1. アレルギー・感染症 1) 感染症とは 2) 感染症の症状と病態生理 3) 感染症の診断と検査 4) 感染症の主な治療法 5) 主な疾患とその診療 (1) 菌血症 (2) 呼吸器感染症 (3) 性感染症 (4) 消化管感染症 (5) 輸入感染症 2. アレルギーについて 1) 免疫のしくみ 2) アレルギーの症状と病態生理 3) アレルギーの診断と検査 4) アレルギーの主な治療法 5) 主な疾患とその診療 (1) 気管支喘息 (2) アレルギー性鼻炎 (3) アトピー性皮膚炎 3. 膠原病について 1) 自己免疫とは 2) 膠原病の症状と病態生理 3) 膠原病の診断と検査 4) 膠原病の主な治療法 5) 主な疾患とその診療 (1) 関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス (3) ベーチェット病					

<p>Ⅲ. 免疫機能障害皮膚について</p> <p>1. 皮膚の形態と機能</p> <p>2. 症状と病態生理</p> <p>3. 診断と検査</p> <p>4. 主な治療法</p> <p>5. 主な疾患とその診療</p> <p> 1) 接触性皮膚炎</p> <p> 2) 蕁麻疹</p> <p> 3) 紅斑症</p> <p> 4) 水疱症</p> <p> 5) 角化症</p> <p> 6) 熱傷</p> <p> 7) 褥瘡</p> <p> 8) 腫瘍</p> <p> 9) 白癬症</p> <p> 10) 带状疱疹</p> <p> 11) 疥癬</p> <p> 12) 膠原病</p> <p>(1時間：専任教員)</p> <p> </p> <p>* 筆記試験 (1時間：45分)</p>	
評価方法	<p>筆記試験(100%) (血液・造血40点+感染・アレルギー40点+皮膚20点)</p> <p>合計で60点以上を合格とする。ただし、各単元0点でないことを条件とする。</p>
使用テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕血液・造血器」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病・感染症」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔12〕皮膚」 医学書院</p>
参考文献	<p>「人体の構造と機能」 医学書院</p>

【専門基礎分野】 必須科目

科目名		開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
病態治療論Ⅴ		4 セメスター	1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(単元名)		講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
運動機能の障害：筋骨格		伊藤 隆司 (実務経験 有)		14 時間 ／ 7 回
運動機能の障害：リハビリ		田村 常久 (実務経験 有)		4 時間 ／ 2 回
感覚機能の障害：視覚		梶原 由紀子 (実務経験 有)		6 時間 ／ 3 回
感覚機能の障害：聴覚・嗅覚・咽頭		中多 祐介 (実務経験 有)		6 時間 ／ 3 回
事前学習内容				
運動器、眼・耳鼻の解剖と生理機能				
科目概要・目標				
私達が身体を自在に動かすには、筋肉や骨などの運動器が各組織と連動して働いている。また、感覚器は外界からの刺激を受け取る受容器として働き、受け取った情報は中枢神経系へと伝えられる。代表的な器官には目・耳・鼻などがあり、これらの障害はQOLを左右する。本科目は、運動機能や視覚・嗅覚・聴覚障害を起こす臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。				
D P との関連 * 特に関連の深いものを提示する				
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。				
授業計画				
<div>I 運動機能の障害：筋骨格</div> <div>1. 筋、骨格器系の形態と機能</div> <div>2. 症状と病態生理</div> <div>3. 診断と検査</div> <div>4. 主な治療法</div> <div>5. 主な疾患とその診療</div> <div>1) 骨折</div> <div>2) 脱臼</div> <div>3) 捻挫および打撲</div> <div>4) 神経の損傷</div> <div>(1)脊髄損傷</div> <div>(2)末梢神経損傷</div> <div>5) 筋・腱・靱帯などの損傷</div> <div>(1)アキレス腱断裂</div> <div>(2)膝内障</div> <div>6) 先天性疾患</div> <div>7) 骨・関節の炎症性疾患</div> <div>(1)骨髄炎</div> <div>(2)化膿性関節炎</div> <div>(3)変形性関節炎（O A）</div> <div>(4)関節リウマチ（R A）</div> <div>(5)痛風</div> <div>8) 骨腫瘍および軟部腫瘍</div> <div>(1)良性骨腫瘍</div> <div>(2)悪性骨腫瘍</div> <div>9) 代謝性骨疾患</div> <div>10) 筋および腱の疾患</div> <div>(1)ばね指</div> <div>(2)ガングリオン</div> <div>11) 上肢および上肢帯の疾患</div> <div>12) 脊椎の疾患</div> <div>13) 下肢および下肢帯の疾患</div>				
<div>II 運動機能の障害：リハビリ</div> <div>1. リハビリテーション</div> <div>1) 障害とは</div> <div>2) ノーマライゼーションとは</div> <div>3) 医療におけるリハビリテーション</div> <div>4) リハビリテーションチームアプローチ</div>				

<div>III 感覚機能の障害：視覚</div> <div><div>1. 眼の形態と機能</div><div>2. 症状と病態整理</div><div>3. 診断と検査</div><div>4. 主な治療法</div><div>5. 主な疾患とその診療</div><div><div>1) 屈折の異常</div><div>2) 調節の異常</div><div>3) 色覚の異常</div><div>4) 眼位・眼球運動の異常</div><div><div>(1)斜視</div><div>(2)霰粒腫</div></div></div><div>5) 眼瞼の疾患</div><div><div>(1)麦粒腫</div><div>(2)霰粒腫</div></div></div> <div>6) 結膜の疾患</div> <div><div>(1)細菌性結膜炎</div><div>(2)流行性角結膜炎</div></div>

7) 涙器の疾患

(1)鼻涙管閉塞

8) 角膜の疾患

(1)角膜びらん

(2)単純ヘルペス性角膜炎

9) ぶどう膜の疾患

(1)ベーチェット病

10) 眼底（網膜・脈絡膜）の疾患

(1)糖尿病網膜症

(1)網膜剥離

11) 水晶体の疾患

(1)老人性白内障

12) 硝子体の疾患

13) 緑内障

14) 外傷

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
病態治療論Ⅵ	4 セメスター	1 単位	15 時間 ／ 8 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
内部環境調節機能の障害：内分泌	大村 寧 (実務経験 有)		9 時間 ／ 5 回
生殖機能の障害：女性・乳房	西村 宙起 (実務経験 有)		4 時間 ／ 2 回
	太田 裕之 (実務経験 有)		2 時間 ／ 1 回
事前学習内容	内分泌系臓器・器官、女性生殖器の解剖と生理機能		
科目概要・目標	ホルモンは特定の器官で合成・分泌され、血液など体液を通して体内を循環し別の決まった細胞でその効果を発揮する。ホルモンが伝える情報は生体中の機能を発現させ、恒常性の維持など 重要な役割を果たす。また、女性生殖器は女性 ホルモン を産生・分泌する内分泌機能とともに新たな生命を育む重要な器官となる。本科目では、内部環境調節機能と女性における生殖機能の障害を起こす臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。		
D P との関連	＊特に関連の深いものを提示する		
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を 実践できる。			
授業計画	Ⅰ 内部環境調節機能の障害：内分泌 1. 内分泌系臓器の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 1)内分泌疾患 ・クッシング症候群 ・尿崩症 ・成長ホルモン産生腫瘍 ・バセドウ病 ・甲状腺腫瘍 ・甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症 ・副甲状腺疾患 2)代謝疾患 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・肥満症とメタボリックシンドローム ・尿酸代謝異常 3)糖尿病のフットケア (2時間 認定看護師)		
Ⅱ 生殖機能の障害：女性・乳房 1. 女性生殖器の形態と機能 1) 女性とホルモン 2) 月経の生理 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な疾患とその診療 1) 月経異常 2) 子宮内膜症 3) 子宮筋腫と子宮癌 4) 卵巣腫瘍と卵巣癌 5. 乳腺疾患 1) 良性腫瘍 (1) 乳腺炎 (2) 乳腺症 (3) 乳腺のう胞 (4) 乳腺良性腫瘍 2) 乳癌 3) 検査・治療法 ＊筆記試験（1時間：45分）			
評価方法	筆記試験(100%) (内部環境調節60点+女性40点) 合計で60点以上を合格とする。ただし、各単元0点でないことを条件とする。		
使用テキスト	「 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器」 医学書院		
参考文献	「人体の構造と機能」 医学書院		

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
病態治療論Ⅶ	4 セメスター	1 単位	15 時間 ／ 8 回
科目内容の内わけ(单元名)	講義担当者(実務経験の有無)	単元時間数／授業回数	
体液調節機能の障害	金 哲將 (実務経験 有)	4 時間 ／	2 回
	高木 彩乃 (実務経験 有)	4 時間 ／	2 回
生殖機能の障害：男性	金 哲將 (実務経験 有)	7 時間 ／	4 回
事前学習内容	腎・泌尿器、男性生殖器の解剖と生理機能		
科目概要・目標	腎臓は尿の生成に関わるだけでなく、血圧の調節や血液を造るなど重要な生理作用に関与している。男性は泌尿器と生殖器が一部共通おり、泌尿器は、血液から老廃物などの不要な物質を濾過・選別し、尿として体外に排出する器官である。本科目では、体液の調節機能と男性における生殖機能の障害を起こす臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。		
D P と の 関 連 * 特 に 関 連 の 深 い も の を 提 示 す る	DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。		
授業計画	<div>I 体液調節機能の障害</div> <div>1. 腎・泌尿器系の形態と機能</div> <div>2. 症状と病態生理</div> <div>3. 診断と検査</div> <div>4. 治療</div> <div>5. 主な疾患とその診療</div> <div>1) 腎不全と慢性腎臓病</div> <div>・透析療法</div> <div>・腎移植</div> <div>2) 原発性糸球体腎炎</div> <div>・糸球体腎炎</div> <div>・ネフローゼ症候群</div> <div>3) 全身性疾患による腎障害</div> <div>・糖尿病性腎症</div> <div>・アミロイド腎症</div> <div>・多発性骨髄腫</div> <div>4) 尿路の障害</div> <div>・水腎症</div> <div>・神経因性膀胱</div> <div>・尿失禁</div> <div>5) 結石</div> <div>・腎結石、尿管結石、膀胱結石</div> <div>6) 腫瘍</div> <div>・腎がん、膀胱がん、前立腺がん</div> <div>II 生殖機能の障害：男性</div> <div>1. 男性生殖器の形態と機能</div> <div>2. 症状と病態生理</div> <div>3. 診断と検査</div> <div>4. 主な治療法</div> <div>5. 主な疾患とその診療</div> <div>*筆記試験（1時間：45分）</div>		
評価方法	筆記試験(100%) （体液調節60点+男性40点） 合計で60点以上を合格とする。ただし、各単元0点でないことを条件とする。		
使用テキスト	「系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器」 医学書院		
参考文献	「人体の構造と機能」 医学書院		

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期		単位数	科目時間数／授業回数
病気とくすり	2 セメスター		1 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数	
	天ヶ瀬 紀久子 (実務経験 有)		12 時間 ／ 6 回	
	天ヶ瀬 葉子 (実務経験 有)		12 時間 ／ 6 回	
	奈邊 健 (実務経験 有)		6 時間 ／ 3 回	
事前学習内容				
腎臓・肝臓の機能、薬の代謝経路				
科目概要・目標				
化学物質は、生体の生理作用に影響を及ぼし、人間にとって有効なら薬となるが、有害なら毒となる。本科目では、薬物療法の基礎となる薬の特徴と作用機序を学び、疾患別に用いられる薬の人体への影響を理解する。				
D P との関連 * 特に関連の深いものを提示する				
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。				
授業計画				
1. 薬理学総論 2. 薬剤学総論 3. 抗感染症薬 4. 悪性腫瘍治療薬 5. 免疫治療薬 6. 抗アレルギー、抗炎症薬 7. 末梢神経作用薬 8. 中枢神経作用薬 9. 心臓・血管系に作用する薬物 10. 呼吸器系に作用する薬物 11. 消化器系に作用する薬物 12. ビタミンとホルモン 13. 漢方薬 その他 * 筆記試験（1時間：45分）				
評価方法				
筆記試験 100% 60点以上を合格とする。				
使用テキスト				
「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学」 医学書院				
参考文献				
「人体の構造と機能」 医学書院				

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期		単位数	科目時間数／授業回数
保健指導論	3 セメスター		1 単位	15 時間 ／ 8 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)			単元時間数／授業回数
	森地 加織 (実務経験 有)			時間 ／ 回
事前学習内容				
成人看護学《ヘルスプロモーション、意思決定支援、エンパワーメントエデュケーション、セルフマネジメント、コンプライアンス（アドヒアランス）、自己効力》、効果的なコミュニケーション技術				
科目概要・目標				
あらゆる健康レベルにある人々が自己管理能力を高め、健康行動を取れるよう支援することは看護の役割として重要である。本科目では、予防に焦点を当てて、個人・集団を対象とした健康教育や保健指導の基本となる理論と方法について学ぶ。				
D P と の 関 連	＊特に関連の深いものを提示する			
DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。				
授業計画				
1. 教育・指導の土台となる理論と考え方 1)プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 2)保健医療行動と行動変容ステージ 3)意思決定支援 4)家族支援 2. 保健医療活動における教育・指導 1)保健指導・健康教育が行われる場（家庭、学校、職場、地域社会など） 2)対象の発達段階に応じた健康教育の特徴（小児期、成人期、老年期） 3. 保健指導の実際：個人指導「治療を継続している人の健康と暮らし」を考える 事例を基に指導を展開（例：透析患者のシャント管理、化学療法中患者の感染予防 など） 1)対象理解を深める学習・指導案の作成 2)指導案を基に教育媒体（パンフレット、ポスター、模型など）の準備・作成 3)保健指導の実施（ロールプレイ） 4)評価・まとめ 4. 健康教育の実際：集団指導「疾患に罹患していない人の健康と暮らし」を考える 1)準備学習・指導案の作成 2)指導案を基に教育媒体（パンフレット、ポスター、模型など）の準備・作成 3)保健指導の実際（ロールプレイ） 4)評価・まとめ 5. 筆記試験 （1時間:45分）				
評価方法				
筆記試験60%、個人指導演習20%、集団指導演習20%、60点以上を合格とする。 ＊ただし、再試験ではこの限りではない。				
使用テキスト				
「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」 医学書院				
参考文献				
「成人看護学概論 成人看護学①」メディカ出版 「看護者が行う意思決定支援の技法30」医学書院				

【専門基礎分野】 必須科目

科目名		開講時期	単位数	科目時間数／授業回数	
健康と生活環境		2 セメスター	2 単位	30 時間 ／ 15 回	
科目内容の内わけ(単元名)		講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数	
		喜多 義邦 (実務経験 有)		時間 ／ 回	
事前学習内容					
		・「健康日本21」「甲賀・湖南市の保健・医療に関する行政の動向」を調べる。 ・自己の健康に、生活環境がどのように影響しているか考えまとめる。			
科目概要・目標					
		健康と生活環境は密接な関係にあり、健康の保持・増進、回復の支援には人口動向や健康状況の把握が必要となる。そこで、国民の生命を衛るために、健康や生活に関わる諸問題について集団を対象に講じられる健康政策および施策について理解し、地域の健康問題に対する公私保健機関および地域・職域組織が営む衛生活動について学ぶ。			
D P との関連		＊特に関連の深いものを提示する			
		DP(3)甲賀・湖南市民の生活習慣病の予防、健康寿命の延伸等、健康の保持・増進、回復及びセルフケア能力を高める看護を実践できる。			
授業計画					
		1.公衆衛生学概論 2.健康日本21とこれからの保健行政 3.一般的な生活習慣病の概念と予防 4.地域にみられる生活習慣病の概念と予防(脳血管疾患) 5.国民衛生の主要指標の動向 6.保健・医療に関する行政の動向 7.老人福祉保健の動向と介護保険制度 8.生活環境と環境保全 ・酸性雨、地球温暖化、オゾン層破壊 ・大気、水、食品、廃棄物、住環境 9～10.地域の生活環境と環境保全(グループワーク) ・地域における感染予防 ・非日常のなかで人々の健康を保持増進するための公衆衛生とは 例)豪雨による浸水の中でどのように集団の健康を維持・増進すればよいか 11.労働衛生・学校保健 12.疫学的研究法のまとめ ＊筆記試験(1時間：45分)			
評価方法					
		筆記試験 100％ 60点以上を合格とする。			
使用テキスト					
		「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生」 医学書院 厚生指の指標 公衆衛生の動向 2025/2026年 厚生統計協会			
参考文献					
		公衆衛生がみえる メディックメディア			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
社会保障と社会福祉	4 セメスター	2 単位	30 時間 ／ 15 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
	保科 和久 (実務経験 有)		時間 ／ 回
事前学習内容	・ 授業計画を参照し、社会福祉と社会保障との違いや各制度の概要を調べる。		
科目概要・目標	国民一人ひとりが幸せに暮らすためには個人の生活上のリスクに対する社会的な仕組みの充実が求められる。そこでわが国の社会福祉・社会保障制度について理解し、一人ひとりが自立・尊厳を持って生きることができるよう社会資源の活用方法、支援の在り方について学ぶ。		
D P との関連	＊特に関連の深いものを提示する		
DP(6)多職種との協働について保健・医療・福祉における中心となる看護の役割を理解し、健康のあらゆるレベルにある対象が住み慣れた地域で暮らせるように調整できる。			
授業計画	1.社会保障とは 2.社会保障の概念(歴史・制度体系) 3.日本の社会保障制度 1)社会保険制度 2)医療保険制度 3)保健医療制度 4)高齢者医療保険制度 5)介護保険制度 6)年金保険制度 7)労働保険制度 4.社会福祉の概念(歴史・制度体系) 5.日本の社会福祉制度 1)生活保護法と施策 2)児童福祉と施策 3)障がい者の福祉と施策 4)高齢者の福祉施策 6.社会福祉行政(仕組みや地域との連携) 7.社会保障制度の現状と課題 ＊筆記試験(1時間：45分)		
評価方法	筆記試験 100％ 60点以上を合格とする。		
使用テキスト	『よくわかる社会福祉』 ミネルヴァ書房(最新版)		
参考文献			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
医療と倫理	2 セメスター	1 単位	15 時間 ／ 8 回
科目内容の内わけ(单元名)	講義担当者(実務経験の有無)		单元時間数／授業回数
	辻川 知之 (実務経験 有)		時間 ／ 回
事前学習内容	・ 授業計画を参考に、教科書を事前に読み込み自己の「死生観」に関する考えをまとめておく。		
科目概要・目標	医療技術や生命科学の発展は、人間の生命と尊厳をめぐる考え方に変化をもたらしている。様々な立場から「いのちの選択」や「いのちの価値」を考えることは、いのちと真摯に向き合う姿勢を育む。本科目では、医療従事者としての倫理観、死生観を養い、生命の尊厳について学ぶ。		
D P との関連 * 特に関連の深いものを提示する			
DP(2)看護師として使命感をもち、倫理に基づいた判断・行動ができる。			
授業計画	1.生きるということ 1)変わらないものと変わりゆくもの 2)生老病死 3)愛すること 2.生命倫理 1)医の倫理と生命倫理 2)健康と病気 3)ケアとQOL 4)生命の質と生活の質(生きる と 生かされる) 3.現代社会における生命の問題 1)患者の権利と自己決定 (1)患者と家族の思い (2)IFC(病名告知) (3)判断能力 (4)家族の存在と周囲の支え 2)生殖医療と生命倫理 3)脳死・臓器移植と生命倫理 4)終末医療と生命倫理 4.医療従事者の職業倫理 1)医療事故・医療過誤 * 筆記試験(1時間：45分)		
評価方法	筆記試験 100% 60点以上を合格とする。		
使用テキスト	看護学生のための医療倫理 丸善出版		
参考文献			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
法と医療	3 セメスター	1 単位	15 時間 ／ 8 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
	喜多 義邦 (実務経験 有)		時間 ／ 回
事前学習内容	・授業計画を参照し、各法の概要を調べる。		
科目概要・目標	人間の生命を預かる医療者の判断や行動の基本は法律で厳格に規定されている。守らなければならない規範を理解することは、安全な医療を提供するうえで重要である。本科目ではわが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要及びそれを規定する諸法令を学ぶ。また、与えられた看護の職責を遂行するために法律で規定されている医療従事者の資格や業務内容を理解する。		
D P との関連	* 特に関連の深いものを提示する		
DP(2)看護師として使命感をもち、倫理に基づいた判断・行動ができる。			
授業計画	1.公衆衛生と衛生法規 2.看護法と医事法 3.保健衛生法 4.薬務法 5.環境衛生法 6.労働関係法規と社会基盤整備 7.環境法 * 筆記試験(1時間：45分)		
評価方法	筆記試験 100% 60点以上を合格とする。		
使用テキスト	「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令」 医学書院		
参考文献			

【専門基礎分野】 必須科目

科目名	開講時期	単位数	科目時間数／授業回数
法と看護	6 セメスター	1 単位	15 時間 ／ 8 回
科目内容の内わけ(単元名)	講義担当者(実務経験の有無)		単元時間数／授業回数
	米田 照美 (実務経験 有)		時間 ／ 回
事前学習内容			
・法と医療で学んだ「法」および保健師助産師看護師法を再度学習しておく。			
科目概要・目標			
看護師として与えられた権限の中で職務を全うすることはいのちを護るうえで重要である。本科目では、看護師の法的位置づけと責任を理解し、事例や判例から看護師の注意義務および責任について学ぶ。			
D P との関連	* 特に関連の深いものを提示する		
DP(2)看護師として使命感をもち、倫理に基づいた判断・行動ができる。			
授業計画			
<div>1.授業ガイダンス</div> <div>1)保健師助産師看護師法について</div> <div>2.看護行為とは</div> <div>1)看護師の医療行為とその限界</div> <div>2) 看護業務の罰則規定と判例</div> <div>3.訪問看護</div> <div>1) 介護福祉士の医療行為との関係</div> <div>2)認定看護師</div> <div>3)専門看護師</div> <div>4) 特定行為に係る看護師の研修制度について</div> <div>4.医療法</div> <div>1) 個人情報保護法と看護</div> <div>2)看護サービス管理と法</div> <div>5.看護業務と医療安全</div> <div>1) 罰則規定と判例</div> <div>2)リスクマネジメント</div> <div>6.グループワーク発表</div> <div>1)看護場面における安全と法</div> <div>7.患者の権利擁護と看護倫理</div> <div>1) インフォームドコンセント</div> <div><div>* 筆記試験(1 時間：45分)</div><div>筆記試験 60%(60点)以上を合格とする。</div></div>			
評価方法			
筆記試験(毎回授業後にレスポンスカードを記入し、提出をもって出席とする。レスポンスカードの内容によって、単位認定試験に加点する。) 100％ 60点以上を合格とする。			
使用テキスト			
「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令」 医学書院 『私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法』 日本看護協会出版会			
参考文献			